



で、パソコンスキルが不可欠なことは学生も十分に理解しており、就活等で自分のスキルをアピールするためにも、履歴書に資格所有の旨を記載したいと考える学生が多いようです。また、キャンパス内という便利な場所で、実践的なコンピュータ教育を受けられることにメリットを感じている学生も多いと思います」

現在、講座の人気は非常に高く、受講者の募集には定員を大幅に超える応募があるそうです。櫻井教授によれば、目下の課題は、「増加の一途をたどるニーズに対応すべく、パソコン台数や教員人数などの教育体制を充実させていくこと」とのこと。さらに、今後は『2007 Office system』に対応した Microsoft Certified Application Specialist (MCAS) 講座の導入も視野に入れており、現在、具体的にどのようなかたちで実施していくのが望ましいのかを検討されています。

まもなく社会に出ていく在校生はもとより、これから大学に入ってくる次の世代が社会人になったときに身につけておきたいスキルを身につけるため“ツール”として、資格取得を位置づけている情報科学研究所。コンピュータ社会、高度情報化社会の到来を見据えて、早い時期からコンピュータリテラシー教育を導入してきた同研究所の取り組みは、「社会が求める付加価値の高い人材を送り出す」という日本大学商学部の理念とも重なるようです。

Office Specialist講座を春と夏に各々実施しています。内訳は、春期講座がWordとExcel（スペシャリストレベル）講座、PowerPoint®講座、夏期講座がWordとExcel（スペシャリストレベル）講座。当初は、正規の授業期間（前期・後期）のみの実施でしたが、3年前から夏期講座も設置。また、2003年からはPowerPoint講座が新たに開催されています。「夏期講座を設けたのは、学生の事情を考慮してのことです。もともと授業期間（前期・後期）の平日の夕方に時間を設け、ほかの正規授業と並行するかたちで講座を開いていたのですが、それでは出席できない学生もいます。そこで、夏休み期間中に集中的にトレーニングできるようにしました」

現在はWord・Excel・PowerPointの各アプリケーションのなかで、学生からのニーズが最も高いのはExcelとのこと。その理由を、櫻井教授は次のように分析しています。「正規授業やゼミなどで、学生は日常的にWordを使っています。レポート作成などで自然と使い方を覚えていくためか、Wordについてはスキルアップの必要性を感じる学生が少ないでしょう。しかし、Excelの場合は事情が異なります。文系学部のため、そもそもExcelを使う機会が少なく、また、グラフや関数に抵抗感を覚える学生も多いようです。とはいえ、Excelのスキルは社会人にとって不可欠ですし、そのようなExcelのスキル向上の重要性を十分に理解・認識している学生は多いようです。一方、PowerPointについては、社会に出てからの具体的な活用状況が実感できていないためか、まだまだ必要性を認識していない学生が多いようです」

## 就活で自分のスキルをアピール

—— 今後はMCAS講座の導入も

情報科学センターでは、受講生に対してMicrosoft Office Specialistの資格取得を特に義務づけているわけではありません。しかし、前述したように、受講生の大半が資格取得にチャレンジしています。その理由を、櫻井教授は次のように説明します。

「やはり就職活動を念頭に置いているからでしょう。資格取得のメリットは、身につけたパソコンの技能を“資格”という客観的なかたちで表せること。社会人になってからの仕事



「アメニティや環境に配慮したキャンパス」をコンセプトとした新校舎イメージ。2009年の春に完成予定

日本大学商学部 <http://www.bus.nihon-u.ac.jp/>

所在地 東京都世田谷区砧 5-1-2-1  
学生数 約5,000人

商業・経営・会計の3学科を設け、時代の要請に応える理論的素養とスピーディーな行動力を備えたプロフェッショナルの育成を目指している。「実学志向」「即戦力」を理念として、最新ビジネス理論と専門知識を提供するだけでなく、社会人に不可欠な情報リテラシー教育も展開。常に学生のキャリア育成を目標とした教育活動を実践している。



取材ご協力  
日本大学商学部  
情報科学研究所 所長  
教授 櫻井 徹さん